

音楽科 1年

響きのある歌声で、声部の役割を生かした合唱をつくろう

担当 田村有実子

【活動の目標】

呼吸や口形を意識して響きのある声を目指し、他パートの音を聴きながら歌うことができる。

【 問 い 】

- ・伝統を引き継ぎ、ホールに響き渡る合唱をつくるために必要なことは何だろう。
- ・全体で合わせる時につられないような練習方法を考えよう。

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
C 全体で演奏する際に録画し、パートのバランスを聴いたり自分や全体の姿勢を確認したりできるようにした。クラスのストリームにあげ、全員で共有し、次の練習方法を考えるひとつの手段とした。	・録音や録画をするがその場で観たり聴いたりする。
B 少ない授業の中で完成度をあげるために、クラスルームに音源を入れ、家庭で聴いて練習することを促した。	・パートのピアノリーダーが音楽のまとまりごとにピアノを弾いて音を覚える。

【資料】

パート別音源です。



<授業前半>



<授業後半>



【ICT 機器を活用する良さ】

○必要な時に必要な音源を使用して練習を進めることができる。

（範唱、カラピアノ、ソプラノ、アルト、テノール、バス）また、他のパートの音源を流しながら歌うことは、個人のレベルアップにもつながる。

○パートのメンバーや全体の中で歌うことが苦手でも、家庭で学習を進めることができ、少し自信を持って授業に参加できる。

○授業前半に録画することで意欲を持って歌うことができ、授業後半の録画では練習の成果を確認することができる。後半の録画では近くで撮影し、表情が分かるようにした。

【改善すべき点と原因および改善案】

・今年度は合わせ練習を体育館で行ったので、録画や録音したものをすぐに確認することができなかった。道具を準備しておく必要がある。

・パート練習の時点から録画し、各自課題を見つける方法もあった。
⇒1年生はCBの使用に慣れておらず、セットするのに時間がかかると思った。